

えいらい

No.31

平成 29 年 4 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

春号
2017



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会



新年度を迎えて

—これからの医療環境への備え—

事務長 花本 雄二



地域の医療機関をはじめ各関係機関の皆様には、日頃より松山市民病院へのご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。お陰様で今年61回目の新年度を迎えることができました。当院の運営は生活協同組合で始まり財団法人への移行、そして公益法人改革により平成25年に一般財団法人へ移行しました。

その間に南病棟の完成と北病棟の改修、SPDシステムを連動した電子カルテ等IT化の促進、治療装置や診断装置など高機能医療器械の導入等を行い、診療機能の充実にも努めてまいりました。また、病棟編成では亜急性期病床を地域包括ケア病棟へ転換しました。今年2月には、分散していた医療事務部門を管理棟へ集約し、管理事務部門との連携強化に取り組んでおります。

政府は急性期病床から回復期病床への転換と在宅医療を促進させ、効率的な医療提供体制の構築とともに医療費の削減を目指しています。各都道府県は医療介護確保法に基づき2025年に向けた地域医療構想の策定を行っています。愛媛新聞によると、愛媛県では必要病床数が6,135床削減(▲29.3%)の見通しとなるようです。

また、伸び続ける医療費を5,000億円に止める抑制策により、自己負担の増加につながる後期高齢者の保険料軽減特例や高額療養費などの見直しが行われます。来年は医療と介護が同時に診療報酬改定となり、医薬品は薬価制度の抜本改革を行うべく費用対効果評価制度の導入も検討されています。

今後益々医療環境は厳しさを増すでしょうが、当院では質の高い高度な医療体制を維持した急性期の対応も重要

な取り組みです。今年度にはHCU(ハイケアユニット)を開設する予定で建屋の改修、人員の配置などの準備を進めております。

近年、医療・介護業界は慢性的な人手不足であり、働き手の確保が難しい状況が続いています。従って、就労者が働きやすい職場の環境作りも重要事項となります。当院は今年度病児保育を併設した院内保育所の拡充を行い、まずは子育て世代の就労環境の改善に取り組む予定です。

こうした国の医療政策や社会状況に対応する肌理の細かい仕組み作りや人材の育成が急務となっております。当院では3年前に人材育成の一環として一般職を対象に人事考課制度を導入しました。自己評価を行い上司と面談を繰り返して、仕事への取り組みや意識の向上を目指しています。今年は評価内容や評価方法を見直し、さらに質を向上させたいと考えております。

一方、それぞれの部署ではBSC(バランス・スコアカード)を利用した目標を設定し、管理者への説明、報告を行っております。こちらはまだ緒に就いたばかりで本格的な内容の検証はこれからになりますが、問題点や課題を共有し、改善につなげることができると思います。

今年の病院スローガンとして山本院長より、「ビジョン・ミッション・リノベーション」が掲げられました。モノやシステムの改善・改革による付加価値の創造に取り組み、地域の信頼に応える医療を引き続き提供してまいります。

今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

撮影：システム管理課／戒能 裕 (松山市民山越 高崎公園)